

広報広聴委員会先進地視察報告

- ・日 程：令和5年1月24日 午後1時30分から午後3時まで
- ・視察先：岐阜県可児市
- ・目 的：(1) 議会報告会について
(2) 地域課題懇談会について

1 可児市の概要

可児市は岐阜県の中南部に位置し、県庁所在地の岐阜市及び中部圏の中核都市である名古屋市からともに30キロメートルという立地条件から、昭和40～50年代の人口急増・高度成長時代に丘陵地の住宅団地開発により急速に人口が増加した。

昭和57年4月に市制施行、平成17年5月には飛び地である兼山町と合併し人口も10万人を超え、可茂地域の拠点都市として発展を続け、令和4年4月に市制施行40周年を迎えた。

2 議会報告会について

(1) 実施の経緯と概要について

可児市議会は、平成15年9月に全国的に見ても早い段階で議会活性化特別委員会を設置し、議会改革を推進してきた。しかし、平成23年2月に、市議会に対する市民の意識調査を目的とした「議会改革のためのアンケート調査」を、20歳以上の市民2,000人を対象に実施した結果（回収率：40.6パーセント）、回答した人の64パーセントが議員の活動内容を知らないといった厳しい現状が明らかになった。このアンケート結果を受け、議会内部でさらなる議会改革を進める機運が高まり、23年9月に議会基本条例特別委員会（25年3月廃止）を設置し条例制定に向け協議を進め、24年12月26日に議会基本条例を制定、25年4月1日から施行している。以後、この条例を基に議会報告会を毎年開催している。

開催については各地区センター（連絡所）単位とし、毎年春（5月頃）と秋（11月頃）に開催している。春の議会報告会では、新年度予算の説明と議会活動についての報告が、秋の議会報告会では、決算と議会活動についての報告が行われており、それぞれ意見交換による情報共有及び情報収集が行われている。

運営は、副議長、常任委員会及び議会運営委員会の各委員長並びに議会広報特別委員会の正副委員長で構成される議会報告会実施会議で行ってきたが、令和元年8月からは広聴部会を中心に運営されている。広報手段としては、ケーブルテレビ、FMラジオ放送、Facebook、地域の回覧板、チラシ等で周知を図っている。また、後日、説明資料及びYouTube動画を配信している。なお、チラシに出席議員の顔写真を掲載し、どの会場にどの議員が参加するのか事前に分かるような

工夫がされていた。

(2) 内容及び特徴について（オンライン開催について）

コロナ禍前においては、全議員が参加し、グループ形式でテーマごとに意見交換を行ってきたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年以降の議会報告会については、出席者の限定やオンライン会議室システムを取り入れるなど開催方法の見直しを行った。

令和4年5月にZ o o mによる完全オンラインの議会報告会を開催し、市民 25人及び議員 21人が参加した。当日、第1部では「どう使われる？可児市の予算」をテーマに予算決算委員長が令和4年度予算に関する概要説明を行うとともに、議会からの提言がどのように予算に反映されたか説明した。また、第2部では、参加者がテーマごとに3つのグループに分かれ、意見交換を行った。

令和4年11月の議会報告会では、より多くの市民の声を聴く機会を確保するため、対面でもオンラインでも参加可能なハイブリッド方式で議会報告会を開催した。

(3) 今後の取組について

オンライン形式での議会報告会は、会場に出向かなくても気軽に参加できること、オンライン上でグループに分かれて意見交換ができる仕組み（ブレイクアウトルーム）の活用など、多くの収穫があったとのことである。従来の対面形式も今回のオンライン形式も、それぞれのよさがあるため、市民との対話を重視する同市議会では、今後も様々な開催方法を検討し、市民から出た意見を各委員会活動等に活かしていくとのことであった。

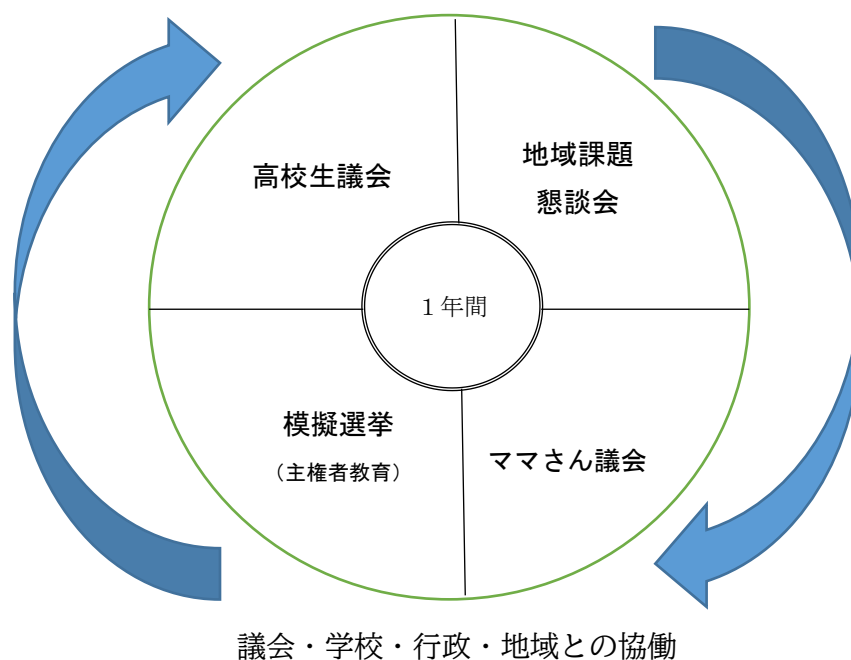
3 地域課題懇談会について

(1) 実施の経緯と概要について

可児市議会では、市民福祉向上のための4つの議会サイクルの中の1事業として、地域課題懇談会を位置付けている。内容としては、地元医師会、可児金融協会、商工会議所等の地域活動団体に取り組む課題について、団体、若い世代、議員間で意見交換を行い、議会活動の参考としている。その中で若い世代への取組として、岐阜県立可児高等学校が取り組む「地域課題解決型キャリア教育（エンリッチプロジェクト）」を支援している。

このキャリア教育は、若い世代が大学進学や就職によって市外に流出する前に、様々な職業や経験がある大人と接する機会を設けて可児の魅力を知ってもらうことで、「地域への愛着や当事者意識の醸成」「広い視野や新しい経験の獲得」「社会や学問のつながりの実感」といった効果を得ることができ、ふるさと可児市の持続的な発展に寄与する人材の育成を行うことを目的としている。

【若い世代との交流サイクル】



(2) 今後の課題について

当初は、岐阜県立可児高等学校が実施する「地域課題解決型キャリア教育（エンリッチプロジェクト）」を支援する事業として始まったが、現在はより多くの高校生を対象にすべきとの判断から、平成 27 年 6 月以降、可児工業高校、東濃実業高校を加えた 3 校を対象とし、また他の高等学校等へも取組を拡大したいと考えている。

4 その他の取組について

(1) ママさん議会

子育て世代の意見を市政に反映するための取組として、平成 28 年 8 月にママさん議会を開催した。開催するに当たり、企画提案の場という位置付けで事前にワークショップを開催し、若い世代の議会への関心を高めるため、ファシリテーターを高校生に務めてもらった。ママさん議会の当日は、令和元年 5 月に開館予定であった駅前の子育て拠点施設の運営、ソフト事業に対する提案について、意見の報告及び発表を行った。

平成 31 年 1 月には、オープンした子育て健康プラザまのについて、普段よく利用している子育て世代の方と意見交換を行い、単なる行政への要望ではなく、自分たちでできることは何かといった、具体的なアイデアや意見をいただいた。また、いずれも、子育て中の母親が気軽に参加できるよう、託児を行った。

(2) 子ども議会

小学校の社会科授業の一環として、市役所や議場の施設見学と併せ、模擬議会を開催。子どもたちが議員席や執行部席に座って発言するなど、政治や行政に興味、関心を持つよう進めている。

(3) 情報発信について

可児市議会では、市議会に関する情報発信の手段として様々な取組を行っていた。議会広報誌（議会のトビラ）を年4回（5月、8月、11月、2月）発行するとともに、ホームページとFacebookを連動させ、タイムリーな情報を両方に掲載している。また、令和4年11月からInstagramも始めている。

会議の様子等は㈱ケーブルテレビ可児による自主制作番組として、生中継及び再放送を行っている。また、インターネット動画配信も行っている。

5 視察所感

議会報告会について、グループ形式での議会報告会・意見交換会は、参加した市民も積極的に意見を出しやすくなり、活発な意見交換につながると感じた。

かつての議会報告会は、不特定多数の方を対象にテーマを設定し開催していたとのことだが、コロナ禍をきっかけに、委員会別にテーマを設定し対象を絞ったことで、より詳細な意見交換を可能にしている。また、委員会ごとにテーマを設けることでテーマに沿った参加者を募りやすく、参加者の減少や固定化の改善にもつながると思われる。さらに、完全オンライン方式やハイブリット方式での議会報告会は、感染症対策だけでなく、子育て、障がいや高齢化等で会場に出向けない方や、若者の参加者増に向けた取組として新たな可能性を感じた。

地域懇談会については、議会がコーディネーターとなり、普段関わることの少ない世代間の交流を促すことで次世代育成に役立っている。また、テーマに応じた各種関係団体による講演などを通じて、若い世代が地域への愛着や当事者意識を育むのに役立っているとのこと。知多市としても小中学生を対象としたキャリア教育、若者への主権者教育として、出前講座を通じた活動の展開の可能性を感じた。

可児市議会では「民意を反映する政策タイムライン」を議会運営サイクル、予算決算審査サイクル、意見聴取・反映サイクル、若者世代との交流サイクルの4つのサイクルで形成している。収集した意見は、委員会で取りまとめ、本会議にて委員会代表質問を行うことにより行政に民意を反映する手法を取っているとのこと。大変参考となった。

今回の視察を通じ、可児市議会の積極的な情報収集・政策提案の手法を学ぶことができた。知多市議会として「民意を反映する政策タイムライン」を明確にして活動を進めることで、議会としてさらなるレベルアップが図られると感じることができ、大変有意義な視察であった。